



2020年5月13日

千葉大学医学部附属病院に対するフェイスシールドの寄贈について

～新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた取り組み～

新型コロナウイルス感染症により亡くなられた方々にお悔みを申し上げるとともに、罹患された方々、被害や影響を受けている方々に心よりお見舞い申し上げます。

千葉銀行（頭取 佐久間 英利）は、新型コロナウイルス感染症の最前線で対応にあたっている医療従事者を支援するため、2020年5月13日（水）、千葉大学医学部附属病院にフェイスシールド8,000セット（製品本体および交換用シートのセット）を寄贈しました。

今回寄贈したフェイスシールドは、千葉県内で3D設計技術サービスや医療事業を手掛ける株式会社ファソテック（本社：千葉市美浜区、代表取締役社長 竹内 淳一）が製造したもので、医療現場での物資が不足している状況において両社の地域に貢献したいとの思いが合致し、当行が購入し寄贈しました。

当行はこれまでも「千葉大学医学部附属病院 臨床医学研究助成会」の会員企業として、地域医療の中核的な存在である、千葉大学医学部附属病院への支援を行ってまいりましたが、今回のフェイスシールド寄贈もその一環となります。

なお、今回の寄贈品購入代金の一部は、当行グループの役職員を対象とした「小さな親切」運動ちばぎん支部（代表 稲村 幸仁）^{*}の募金活動により集められた浄財を充当しています。

当行は、新型コロナウイルスの感染が拡大するなかでも金融サービス提供の維持に努めていくほか、事業や生活面で影響を受けているお客さまを全力で支援してまいります。

※地域の福祉団体等への寄付をつうじた地域貢献を目的として1966年（昭和41年）に設立された団体。

以 上

【5/13 フェイスシールド寄贈式の様子】



(左) 千葉大学医学部附属病院 院長 横手 幸太郎 様
(右) 千葉銀行 頭取 佐久間 英利

【寄贈したフェイスシールド】



【フェイスシールド着用イメージ】

